



# チンロンのボール

## 自分で育てて自分のチンロンに

チンロンで使用する籐で編まれたボールのこともまたチンロンと言います。

チンロンのボールは自分で育てるもの。蹴って練習して、雨で濡れたら日干しして、大切に手入れをしながら使いこんでいきます。蹴った時に、編まれた籐から鳴る「シャン」という音も、チンロンの味わい深い特徴のひとつです。



## ボールをゆでる？

ミャンマーの店頭で売られているチンロンは、すぐ使えるよう完成されたものなので、ペインティングでくっついている籐の束をくずしてバラバラにするだけで、その日から蹴ることができます。ところが、チンロンを作っている人たちから直接買う場合には、使う前に準備が必要になります。まず、編まれたばかりのチンロンは生木のままの状態なので、一度「ゆでる」必要があります。沸騰したお湯の中に30分くらい入れ、そうすることで籐の堅さがとれて足になじむようになります。次に、よく乾燥させた後、白色でペインティングします。白色に塗るのは、観客からチンロンが見やすくなるのと、防腐剤としての効果もあると言われています。

## ボールは本数にこだわる！

チンロンのボールは5本の皮籐（籐を表皮の側から挽いたもの）を使って編んでいきます。ボール状になったときに、その皮籐が何周しているのかで、例えば8本は「シッピン」、9本は「コーピン」などと呼んでチンロンボールを区別します。チンロン選手たちが好んで使うのは、8本が多いですが、まれに10本で作られた芸術的なチンロンもあります。本数が多いということは、それだけ1本の皮籐が細くて長いということなので、材料そのものも手に入りにくいもの。本数が多くなると、弾力性がでて、足にかかる負担も小さくなります。しかし、その分、壊れやすいという難点もあります。逆に、4本とか5本でできたチンロンもあり、それらを使い込んでいくと、非常に良い音が出る上、とても長持ちするので、10年以上使い続けることができます。



(了)